



# おちほ

第62号 平成20年12月1日発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者山下陽一



わくわく、それぞれ、寮生さんは朝から落ち着かない様子。七月六日、今日は新人職員の晴れ舞台、毎年恒例の新人による出し物の日です。

今年には桃太郎の劇をしようということになり、いろんなキャラクターを使い、ダンスも入れ、台詞も自分達で考え、楽しい劇にしよう！と内容は決まったものの、新体制で夜勤が増えた上に、人数も多いため、全員が揃っての練習が難しい状態でした。

そんな中迎えた本番。話が進んでいき、「みんなで踊ろう！」と桃太郎が行った瞬間、舞台は寮生さんでいっぱい。けど実は、この時の「みんな」は登場人物であるドラえもん、アンパンマン、マジンガーZを指していたのです。だからこっちはあたふた。ですが、寮生さんの楽しそうな笑顔を見ていると、これもまた良し。と思えました。

この八人だからこそできた事であり、一人でも欠けていたら成り立たなかった劇になったと思います。

# ポニョ、見た？

理事長 山下陽一

ポニョ！

宮崎駿監督のアニメーションはそれぞれがその都度に新しい感動とともに今の世界のあり方を省みる手かりを与えてくれるものでした。今映画館にかかっている「崖のうへのポニョ」もその例で、夫婦、親子、環境破壊、汚染、老人問題など、今の社会がかかえる問題の複雑な多面性を五歳児の意志と行動を通して、今の世を問うものになっていると思います。

わたしの仕事場でお母さんと一緒にいる三歳児に「ポニョ見てきたでー」というと、げんんな表情で、「誰とですか？」とお母さんに尋ねられました。この映画は幼児のお楽しみ映画というのが一般的な位置づけだと思えますが、劇場でこのアニメを隣で退屈し眠そうにしている子どもさんを差し置いて真剣にご覧になれば、決して幼児の娯楽映画にとどめ置かれるものではないことに気づかされます。

たしかに、主人公は五歳の「宗介」と同じ年頃の人魚姫「ポニョ」の冒険のお話ですが、なかなかどうして、この五歳児のポニョを守る決心はおとなのそれに劣らない熱いものなの

です。母親の名をリサとファーストネームで呼ぶことに団塊世代の差を感じないわけではありませんが、このアニメに織り込まれているテーマを理解することは決してやさしくはありません。

## 汚染された海

ポニョと宗介が運命的に出会うのは海の汚染にありました。トロール船が海底に放棄され近代文明の廃棄物まで熊手を入れて稚魚まで根こそぎ取ろうとします。その中のガラスビンに入っていたポニョと宗介が出会うことになりました。これは今の海洋における大きな問題の一つで、ヒトの欲望による汚染と乱獲と喰い尽くしはとどまる所を知りません。

ポニョの母グランマンマーレは生命の素的存在で、しかも宗介の心変わりがあるとポニョは人間にはなれず泡になって消えてしまいかねないことも司る存在で、生と死の双方を肯定しています。

## 「ひまわりの家」のおばあちゃんたち

宗介の母リサは老人デイサービスセンターの職員という設定になっています。センターではなぜかおばあちゃんだけがイキキしている。「おひとりさまの老後」（上野千鶴子著）によると平均寿命の統計から、高齢者施設では入居者が圧倒的に女性ばかりになる、ということ。「二十一世紀はおばあさんの世紀」になるようですが、それが根拠になっているのか、ひまわりの家でもやはりおばあちゃんたちが元気です。宗介もこのおばあちゃんたちにはかわいがられていて、皮肉ばかりを連発するいじわるのおトキバあちゃんでも、宗介はそれを受けいれつつ関わろうとしていきます。

車椅子生活のおばあちゃんたちなのですが、お迎えが来るまでは、本当はちよつと歩いてみたい、そして窓ガラス拭きをするだけでいい。それができたらどれだけ気分がせいせいするだろうかといつも願っています。

魔法が生きている

大津波がやってきて崖の上まで水につかり、小さい海辺の町は水没します。そのため高台にあるホテルに避難するのですが、濁流によるものではなく、透明に水没した町並みのさわやかなこと。洗濯ものまで海中でそよんでいます。そんな中、宗介がいつも大事にしているおもちゃのポンポン船をポニョの魔法で大きくしてリサ探しに出かけます。途中高台に避難する人たちに会いリサに遭うことができます。

ところが、センターにいた車椅子のおばあちゃんたちが救助船から山の上まで自分の足で駆け上がった。こんな所はおとなの思考からす

ると「ありえない！」というところでしょうが、五歳児の観客にとっては「ありえない！」ことではないはず。このあたり、実際の五歳の子どものちに尋ねてみたいところです。車椅子のおばあちゃんも歩くなんてありえないなどと野暮はいわなくて大人たちは片目をつぶっていたみたいです。おばあちゃんたちの夢に魔法が働いたと納得しましょう。それは、おばあちゃんたちにとってお迎えがきたときにニッコリするためなのですから。

## 約束を守りぬく

このアニメはリサやおばあちゃんたちはイキキしているのに対し、宗介の父にせよ、ポニョの父フジモトにせよ一生懸命役割を果たしているわりには男性が影の薄い存在です。ところが、五歳児の宗介だけは海に連れ戻されそうなお母さんに「大丈夫だよ、ぼくが守ってあげるからね。」という約束を守り抜くのです。守る約束を果たすにはこの五歳児の強い意志により一切を変えてしまわないと守ることができない、そしてその後には新しく安定した世の中をもたらしたいのです。この五歳児の「守つてやる」という意志の力はおとな世界に何を問いかけているのか。このアニメは決して幼児向けの娯楽アニメにとどまっていけない気がするのです。

是非ご観劇を！

(二〇〇八・一〇・一四)



寮 長

## 中嶋 貴一郎

秋の深まりとともに、実りの季節がやってきました。収穫を迎える人々にとって、その育成にたずさわってきたことへの喜びの声が聞こえてくるようです。収穫に汗を流す人の姿を見ていると、かつて、師と仰ぐ先生や諸先輩方から教えられた「農の民の心」について思い返していました。

師曰く、人に携わる仕事をするものは、「農の心」を忘れてはいけない、人にかかわることの原点は「農」にあるという事であった。当時、若輩であった私には、私的には農業にかかわっていたにもかかわらず、頭では理解できても感覚では理解できずにいました。時が立ち、年齢を重ね、人にかかわる仕事を長く続ける中で、そして、自分の子供を育てる中で、最

近、人にかかわり、人を育て、人の生活や生き様を支援していくことは、作物を植え、育て、実りを迎えることに通じると感じるようになってきました。

私が「農」について語るのは少々おこがましいと思うのですが、「農」の世界は自然を愛し理解し、緑に親しみ、土に親しむ事から始まり、生き物の一生に日々かかわっていく地道な連続だと思っています。気を抜くと作物の実りを迎えることが出来ない事もしばしばで、一喜一憂の日々の連続でもあります。そういった営みの中で、「農」に従事する人の中で協働の意識が生まれ、相互扶助の意識が生まれ、老若男女を問わず横のつながりが生まれてくる。こういった世界観は、人にかかわり、人の生活を支援していく福祉の現場に通ずるものがあるのではないかと感じられます。むしろその原点をなすのではないかと思えます。

落穂寮は創設当時より「農」への取り組みを大切にしてきました。その時代ごとに緑を植え増や

す事に力を注ぎ、作物を植え育てる中で人とのかわりを、地域の人々とのかわりを求めてきました。これは、諸先輩方の、施設の営みの原点が「農」にあると思いが時代を超えて共通の認識として引き継がれ、今にいたっているのではないかと思えます。落穂寮の「落穂」という名前にも創設当時の先人の「農」に対する思いが表れているのだと、私なりに認識しています。

少し余談になりますが、「落穂」という名前に批判的に見る方がいます。「落ちこぼれの穂」という解釈をされて、障害を持つ人を落ちこぼれと見るのかと言う批判ですが、稲作に従事した人なら知っていることですが、「落穂」は収穫の際に刈り取りがうまくいかず手元からこぼれ落ちた穂であって、けっして落ちこぼれの穂ではありません。うまく刈り取れなかったことへの収穫者の懺悔の思いが落穂拾いへと駆り立てるので「農の民」の作物への思い入れの一コマでもあります。だから

私は「落穂」という言葉に愛着を持っていきます。

今、福祉の現場は「サービスマン」「サービスマン」といった市場原理、競争原理が導入され、効率化や点数で判断する流れに進んでいますが、そのことに、私自身は疑問を感じる一人ではありますが、時代が変わり、形が変わっても、人にかかわり、人の生活を支援していく場である事に変わりはないと思えます。その意味で、福祉の現場に立つ私たちは、その原点である「農」を大切に「農の民の心」を持ち続けたいと常に思っています。そして、私が諸先輩方よりお教えいただいた思いを、次の世代にどのように伝え、理解してもらおうかに日々心を悩ませていきます。

実りの秋に、運動場の柿の木に実った柿を眺めながら、日頃の思いを筆にしたためてみました、非常に抽象的で、今風に言うとなかなかアノグな思いと笑われそうですが、自分なりに大切にしたい思いとして書いてみました。

夏を彩る

ホールの窓からグラウンドを眺める人だかり。寮生さん達です。今年の納涼祭はやはりも屋台もグラウンドに設置することにしたので、寮生さん達も夜に向けての準備が着々と進んでいくグラウンドに心が奪われているといった様子でした。

地蔵様の力にだけ頼らず、職員もしっかりとそのサポートに励んでいこうと思えます。

夕暮れ時より始まった納涼祭。今年のメニューはおでん・おにぎり・ジャージャーそう麺・焼き鳥・ジュース・ゼリーの6品で、ポリュームは満点！寮生さんはもちろん、職員までが「もう食べ切れない?!」と言う位の量でしたが、たまにはこれ位の大ファンパツも良いものです。☺

おながが満たされた後は、やぐらの回りを皆で盆踊りし、納涼祭クライマックスには花火…と落穂の夏を彩る風景が、空の色の変化と共に移り変わっていきました。

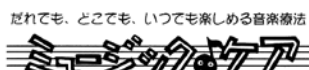
空の色や景色が変わっても、寮生さん・職員の顔はずうーっと笑顔のまま。それは秋がやって来ても、冬が訪れても同じでありたいものです。ね。(\*)



♪元気に元気に♪  
ゆつくりゆつくり♪

落穂寮の余暇活動の中で、ミュージック・ケア、というものに取り組み始めてから5年という時間が経過しました。音楽療法とひと言で言っても、そのアプローチの在り方は様々で、その中の一つにミュージック・ケアと呼ばれるものが存在します。

とある1人の女性職員が、5年前にミュージック・ケアという優しい風を落穂寮に吹き込んでくれました。初めはソォーッと吹き込んでいたその風も、5年という時と共に少しずつ少しずつ、その力強さは増していききました。優しい風、を温かく受け入れ、見守ってくれる職員、そしてその風を待つてくれている寮生さんの存在があったからです。



時間の足りない毎日。「もっと関

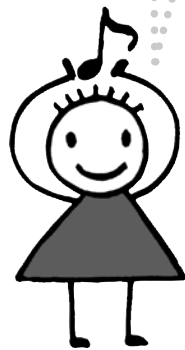
ますよ。(\*)

わりたいののに」「もっとしつかり向き合いたいのに」…たくさん『もっと』を私達職員は抱えながら日々の支援に当たっています。ミュージック・ケアはその『もっと』をわずかなりとも解決してくれる存在でもあるのです。

「素晴らしい」

そうやって認め合える時間。温かく肯定することの出来る時間。そんな時間って、やっぱり大切です。そして必要なのです。

まだまだ不定期な取り組みでしかない落穂ミュージック・ケアですが、もしどなたか興味を持って下さったのなら、参加されてみませんか？温泉みたいに、ほっこりと出来ますよ。(\*)





▼網引き！  
力くらべ!!

▲玉入れ！  
今年は横に入れてね！



▲いよいよ始まり！  
準備体操も楽しいリズムで!!

し  
う



▼紅白対抗  
負けないぞお～



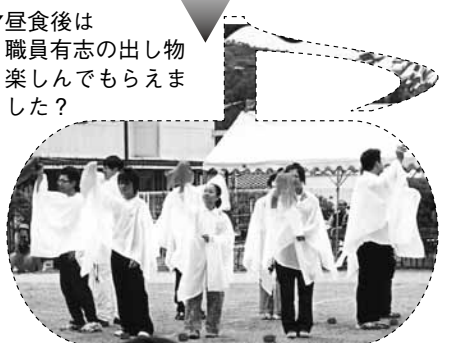
▲徒走は全員参加！  
ゴールまでがんばって！



▲ダンスは「いやし」がテーマです

大  
2008

▼昼食後は  
職員有志の出し物  
楽しんでもらえま  
した？



# おちほの秋は？

今年も十月十二日に落穂寮レクリエーション大会を行いました。平成十七年に運動会からレク大会に変わり、早やレク大会も四回目。寮生さん、職員、保護者の方々にも「レク大会」の名前が馴染んできた感じがしてきました。

前日は雨の為、準備が捗らず、大変でしたが、当日は晴天に恵まれ行う事ができました。これも皆様の日頃の行ないでしょうか？

寮生さんは徒走には全員参加。自分の力でゴールまで全員走ってもらいました。今年はショートステイで来られた方や、実習生、新人職員、何故か三十代の職員も参加していました。(笑)

徒走の後はお楽しみのお弁当！秋の味覚が沢山入ったお弁当を頂きその後は職員有志の出し物を行い、紅白対抗、玉入れ、網引き、ダンスの順で行いました。寮生さんや保護者に楽しんでもらうべく、どれも工夫をこらした競技でした。楽しんでもらえたでしょうか？

終わってからは片付け、寮生さん、保護者の方もお手伝いしてもらいました。ありがとうございました。また来年もみなさんでレク大会をよいものにしていきましょう。

▼空き缶リサイクル中▼

▼療育班にて マーブリング



# 日中活動紹介 THE リニューアル Ver.

今年度より新体系に移行して半年、毎日試行錯誤の日々を過ごしてきました。その中でも、利用者さんの生活に大きな関わりを持つ「日中活動」の見直し・変更が最も大変なものでした。

昨年までの日中活動は、午前中は歩行訓練、午後は個々の能力を考慮した日課班編成をしていたつもりでした。長年かけてまとまりのある集団を築き上げた為、取り組みの継続が能力の維持に繋がると思い込んでいたのです。

しかし、実際は思うように動くことができない方や、活動内容に不向きな方も出てきておられ、移行と同時に活動に対する考え方も見直すことになったのです。

今年度は、午前の歩行訓練は変わらずですが、午後の活動は主に作業班と療育班の二つに分かれて行なっています。取り組み内容もバリエーションを増やし、曜日によってグループを小分けにし、より個人に応じた活動を提供することで、充実した日々を過ごしていただけるように、実際に活動していただきながらの検討を繰り返して行いました。

その結果、月・水・金は作業班として活動され、火・木は長年築き上げてきた空き缶リサイクル・織物・環境整備の三班に分かれての活動となりました。「継続こそ力なり」ですが、合わなくなった活動を提供するという、個別支援に程遠い現実をしつかり踏まえた上での活動内容の決定です。

もう一つ、重度の障害を持つておられる方たちの精神安定や能力の維持・発達を保障するには、作業活動よりも五感を刺激し、心に働きかけ自発的な行動を促す取り組みの方が有効ではないかという事で「療育班」ができました。この班では、毎日の主担当職員が代わることで活動内容も変わり、造形・感覚遊び・ミュージックケア・ハンドマツサージなどなど、利用者さんの五感に働きかける取り組みを工夫して提供していきます。

こうして、三ヶ月の試行錯誤の日々の結果を踏まえた新しい活動は、半年経って定着しつつあり、安定した毎日の中にも程よい刺激のある充実した生活が提供できていると思います。

新体制になって生まれ変わりました



▲環境整備



▲織り物（平織りと結び織り）▲



## 男子棟・飯盒炊さん

八月三日、男子棟は飯盒炊さんを行いました。この日は、天気にも恵まれてよく晴れた暑い一日になりました。

午前は、プールに入られる寮生さんや、ミュージックケアに参加される寮生さん、いつも通り日課に取り組まれる寮生さんと、様々な形でごされています。

お昼は、ステーキのセカレーと大根サラダです。天気の良い中、外で食べるカレーに寮生さんだけでなく職員も美味しく頂く事ができました



▲美味しくいただきます

た。いつもと違って外での食事に寮生さんも食欲がわいてくるのか沢山おかわりされる方もおられました。午後もプールやミュージックケアに参加され楽しくすごされています。一日プールに入られた寮生さんは、しっかり日焼けされていました。

おやつには、杏仁豆腐入りフルーツポンチを召し上がられています。好評だったようで皆さんペロリと完食されていました。

一日、天気も崩れる事なく、無事に寮生さんに、様々な形で夏の一日を楽しんで頂けてよかったですと思います。



▲プールで ハイ！チーズ！

## 落穂寮へようこそ

8月から落穂寮に新しい仲間が加わりましたので、紹介したいと思います。女子棟の柿田さんです。女性ですので詳しい年齢は伏せますが、現在の落穂寮の中では何と最高齢、好きな食べものはパン、いつもニコニコと笑顔の素敵な方です。さて、この落穂のニューフェイス柿田さん、年齢の割に、と言っては失礼ですが、とても元気な方で、午前中は歩行に、昼からは外作業など、ひと回り、ふた回り若い寮生さんと頑張って活動されています。特に昼からの外作業では草抜きや、グラウンド整備に大活躍。ここでもニコニコと頑張っておられます。また、余暇時



▲素敵な笑顔です

間には、早くも仲良くなった寮生さんと一緒に遊んでおられ、女子棟での生活にもすっかり馴染まれたように見受けられます。職員にも「アパ、アパ」と話しかけられ、まだまだ意志の疎通が上手くないこともありますが、柿田さんの笑顔に職員の方が癒されているほどです。みなさんも落穂寮に来られた時には、ぜひ柿田さんに話しかけてみて下さい。最高の笑顔で迎えてくれると思います。



▲作業に精を出す柿田さん

石部中学校交流会



今年も石部中学校の生徒さんが交流という事で来て下さいました。毎年の事ではあり

▲草むしりガンバッテマスサッカーは得意？▶

▼好評！車椅子体験



ますが、来られる生徒さんは当然違うわけですから、こうして毎年来て下さる事はとても大変なことであり、生徒さんや先生も含めて、関係者の皆さんに感



▲ウクレレ演奏はどうでしたか？

謝しなければと思います。ありがとうございます。

さて、今年七月一日（一回目）と十月八日（二回目）に十八名の生徒さんと交流会を開きました。一回目は主に歩行訓練に参加され、緊張の面持ちではありましたが手をしっかり繋いで歩いていました。二回目は一日交流で、午前は同じく歩行訓練に参加。午後は各日課班に分かれての活動で、サッカーをしたり草むしりをしたり音楽を聞いたり利用者さんと交流をもたれていました。特に療育班でのウクレレ演奏は楽しまれていたようです。これからもこういう行事を通して、地域の方たちの理解を得ると同時に、次代の福祉を担う人材を育てる一助になればと思います。



▲七月の歩行

泉

▽今年度も、はや半年が過ぎました。新体系に移行して何が変わったのかと言いますと、短期入所利用の受け入れが大幅に増やせたことが上げられます。

これまでは、在寮者の療育に手一杯で、他へ回す余力など全くありませんでしたが、職員の努力と工夫と忍耐のおかげで少し、（ジんクスがあるので書けません。想像して下さい）になりました。また、もう少し地域生活支援にも力を入れられたら、という思いに現場職員が応えてくれた事が大幅増に繋がったと思います。

他の施設に比べてまだまだですが、地域と多くの関わりをもてる落穂にしていきたいと思えます。

▽先日レク大には、多くの方に御参加頂き、誠にありがとうございました。

木言

どこで芽を出すかを選ぶことはできません。でも、どのようにつかを選ぶことはできます。

ただ、そこから移し替えられたものには、どれを選ぶのか、どれが選べるのかの手助けが必要。枝ぶり、花つきをよく観て、何を必要としているのかを感じてください。